

### 3. 新川地方拠点都市地域整備の基本方針

#### 1) 新川地方拠点都市地域の将来像

##### (1) 地域づくりのテーマ

本地域における地域づくりの目標は、若者の流入、定着の促進を図っていくとともに、住民一人ひとりが自然の恵みを受け、文化的、経済的豊かさの中で、うるおいとやすらぎのある生活を送ることが出来る地域社会の実現にある。

本地域は、北陸自動車道に加えて、平成26年度末完成予定の北陸新幹線の整備により、富山県内では首都圏に最も近い交流・交通の要衝として、新たな発展の可能性が高く、日本海・黒部峡谷・立山などの雄大な自然環境と年間100万人以上が訪れる宇奈月温泉等恵まれた地域資源を活かした、観光・交流による地域づくりを進めるのにふさわしい地域である。

これら、各市町固有の文化、歴史、伝統等地域の特性を最大限に発揮して、都市的賑わいや文化、教育、医療などの都市機能を整備するとともに、工業集積や良好な住環境の整備、スポーツ・レクリエーション施設の充実を図るなど、交流を担う若者らの定着を促進する職・住・遊・学の調和した魅力ある生活空間の形成を図る必要がある。本地域の良さ、新川らしさを再認識するとともに、これまで築いてきたものを基礎にして、自信と誇りと創意を持ちながら、来るべき時代に引き継ぐ新たな地域づくりに挑戦する。

住民一人ひとりの創造性が十分発揮され、住む人、訪れる人のふれあう地域を築くため、地域づくりのテーマを次のとおり設定する。

豊かな水と緑・賑わいある国際交流都市「<sup>にいかわ</sup>新川」

## (2) 基本理念

### □賑わいのある感動拠点づくりをめざして

魚津市、黒部市の市街地は、本地域の商業・業務、医療・福祉、教育、文化等の中心として、相互補完しながら都市機能の集積が図られている。

このような状況のもと、若者の賑わいを創出するため、既存商店街と一体となった新たな商業・アミューズメント機能や文化・芸術機能の核を図るとともに、若者が注目する魅力ある就業環境の創出、さらには、高齢化社会への対応として医療・福祉の充実を図り、賑わいのある感動拠点づくりをめざす。

### □内外との交流拠点づくりをめざして

本地域には年間入込客100万人以上の宇奈月温泉があり、また、県際間（新潟・長野）にあることから、古くから産業、経済交流が活発であり、多様で豊かな文化をつくり上げてきた。さらに、全国的・国際的な企業も立地し、人、情報等の幅広い交流や国際交流が活発に行われている。

山と海、都市と農山漁村などの多面的な交流を促進するために、周辺地域との交流を強化するとともに、環日本海交流の中核県をめざす富山県東部の拠点として国際交流にも積極的に取り組む。さらに、国際性豊かな人づくりや外国人が過ごしやすいまちづくりを進め、「世界に開かれた、そして世界に貢献する新川」づくりをめざす。

### □水文化ネットワークをめざして

本地域は、全体の約4割を国立公園や、県立自然公園が占め、しかも狭い地域の中で、海から平野（扇状地）、峡谷、山岳まで標高差3,000mのトータルな自然環境に接することができる。そして、この豊かな環境から独自の水文化が数多く生まれ、人々の情操のかん養や、やすらぎを与えるなどの恵みをもたらしている。

高齢化社会を迎え余暇時間の増大は、身近なところにやすらぎやうまいおいのある快適で魅力のある環境に対するニーズがますます強まる傾向にある。そのため、人と自然が共生する環境づくりを進める一方で、この地域を水に関する博物館としてとらえ、フィールド活動や情報発信を行う水博物館（フィールドミュージアム＋バーチャルミュージアム）事業を推進し「水文化ネットワーク」の形成をめざす。

## 2) 計画の目標期間

本計画の目標期間は、平成18年度から概ね10年間

### 3) 整備の基本方針

以上の基本理念を実現するために次の5つの“基本方針”を定め、地域の一体的な整備を図っていくものとする。

#### (1) 高次都市機能の充実

若者の流入、定着の促進を図り、賑わいのある都市を形成していくためには、若者など住民のニーズに応えた高次都市機能の充実を図っていくことが必要である。

このため、魚津市、黒部市を中心に、商業・業務、文化、娯楽、福祉等都市機能の整備や集積を促進し、若者にも魅力ある都市づくりを進めていく。

#### 【数値目標】

- ・ 地域内定住人口 12.5 万人以上を目指す (H17 国勢調査人口速報値：131,731 人)
- ・ 昼間人口 13.2 万人以上を目指す。(平成 12 年国勢調査：131,833 人)
- ・ 小売店年間販売額対 H14 年比 110%を目指す。(平成 14 年商業統計調査：13,920,961 万円)
  - ※新川地域の人口は減少傾向にあるが、向こう 10 年間で H12-H17 減少率(2%)の 25%とした。
  - ※昼間人口は現状維持以上を目標とした。
  - ※小売店年間販売額は、ピーク時の15,835,330万円(平成9年商業統計調査(地域指定後))を目標とした。

#### (2) 若者を含む幅広い年齢層に魅力ある就業機会の創出

若者の定着やUターンの促進を図るため、国際的な企業が立地しているという利点を活かし、さらに高速道路のインターチェンジ周辺などを利用して、工業団地や流通施設を整備するとともに先端産業や研究機関などの誘致や育成を図る。

また、既存企業等については、技術革新やチャレンジ精神に富んだ人材の育成、異業種交流・産学官の連携による技術水準の向上などにより、魅力の増進を図り、若者にも魅力ある就業機会の増大に努める。

#### 【数値目標】

- ・ 従業者数 6.6 万人以上を目指す。(平成 16 年事業所・企業統計調査 57,207 人)
  - ※従業者数はピーク時の 66,925 人 (H8 事業所・企業統計調査(地域指定後))を目標とした。

#### (3) 国際交流を中心とする交流拠点としての各種条件整備

国際交流が盛んに行われている素地を活かし、本地域を定住の場のみならず、交流の場としても位置づけ、環日本海交流の中核をめざす富山県東部の拠点として整備を進める。このため、県内及び大北地方(長野県)や糸魚川地方(新潟県)など周辺地域との交流をはじめ、環日本海沿岸地域や、姉妹都市間の国際交流を充実させるとともに、交流の拠点となる施設の整備や、外国人研修生の積極的な受入れのための条件整備など、ふだん着の国際交流が図れるまちづくりを推進する。

#### 【数値目標】

- ・ 公共ホール・劇場開館等稼働率 65%以上を目指す。

※公共ホール等の稼働率は、新川文化ホール 41%、黒部市国際文化センター63%、入善町コスモホール 44%、朝日町アゼリアホール 38%、地域全体で 65%以上を目指す

#### (4) 緑があふれ独自の水文化に育まれたうるおいある定住環境の整備

本地域には、立山の雄大な景観、緑の多い田園風景（扇状地）、黒部川、早月川、片貝川、小川などの自然環境があるとともに、水に関わる独自の水文化が育まれている。この水、緑を保全するとともに、住宅、上・下水道、廃棄物処理施設など生活に不可欠な居住環境の整備を図り、住民が快適で住みよい生活空間の形成に努める。

また、この豊かな自然とこれまでに育まれた文化等のネットワーク化を図り、ゆとりとうるおいのある居住環境の形成に努める。

##### 【数値目標】

- ・生活排水処理普及率 91.6%以上を目指す。（平成 15 年度：生活排水処理普及率 52%）  
※（平成 17 年新川地域エコプラン）

#### (5) 自然を活かした、個性豊かな観光レクリエーション拠点の整備

本地域は、3,000m級の立山連峰や黒部峡谷に代表される山岳資源、ヒスイ探索や海水浴等が楽しめる宮崎境海岸、宇奈月温泉など、内外に誇り得る豊かな自然を有しており、歴史的・文化的遺産と併せ、魅力あふれる観光地である。

この、雄大な自然環境の利用促進を図るとともに、アウトドア施設、温泉保養施設、体験交流施設など観光客の受け入れ体制を総合的に整備し、国内外の観光客の多様なニーズに対応できる滞在型観光レクリエーション地としての整備と観光サービスの向上を図る。また、北陸新幹線や東海北陸自動車道の開通をにらみ関東・中京方面への観光PRを積極的に行うとともに大北地方、糸魚川地方などとの広域的連携を進める。

##### 【数値目標】

- ・観光客入り込み客数 420 万人以上を目指す（平成 16 年フォローアップ調査 4,130,385 人）

※海外からの観光客を誘致し、ピーク時の 4,193,635 人以上（平成 14 年フォローアップ調査）を目標とした。